

オープンソースの可能性 ～現状と課題～

株式会社びぎねっと
宮原 徹
tmiyahar@Begi.net

Begi.net

アジェンダ

- OSS開発モデルの分析と評価
- OSS開発者の分析
- 「オープンソース化」に対する考察
- なぜオープンソースか
- OSSビジネスモデルに対する考察
- 成功するOSS開発プロジェクト
- 成功するOSSビジネス
- OSSに期待するもの

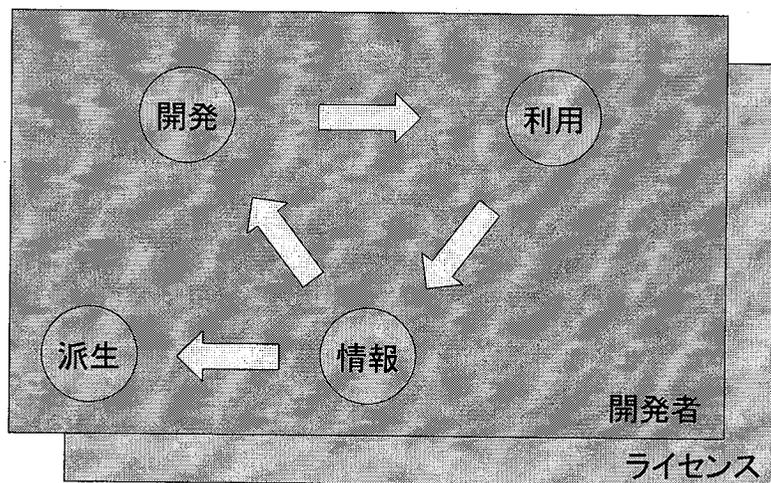
Begi.net

OSS開発モデル

- 誰でも開発できる
 - ソフトウェアは本来的に自由という発想
- 誰もが利用できる
 - 利用＝開発にやや近い
- 情報が共有される
 - ソースコードが開示される
- 派生系が許容される
 - ライセンスによって制限される場合も

Begi.net

OSS開発のサイクル



Begi.net

OSS開発の幻想

- プロジェクト推進において意思決定が必要
 - 誰もが意思決定できるわけではない
- 1つのソフトウェアとしての整合性が必要
 - 開発したものが取り入れられるわけではない
- 派生系は必ずしも許容されない
 - 排除はされないが、受け入れられないことも
- 必ずしも自由ではない？
 - 「定義された」自由と「現実の」自由のギャップ

Begi.net

OSS開発者の分析

OSS開発のモチベーション

- 自分に必要だったから
 - 自分でソフトウェア開発→OSSプロジェクト化
 - 使ってみた→改良修正→プロジェクトに参加
- 技術的に面白そうだったから
- しかし、プロジェクトの進捗と共に、開発に
寄与する人員が徐々に減少していく傾向

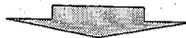
参考: FLOSS-US (THE FREE/LIBRE/OPEN SOURCE SOFTWARE SURVEY FOR 2003)
<http://www.stanford.edu/group/floss-us/report/FLOSS-US-Report.pdf>

Begi.net

「オープンソース化」に対する考察

- 「目的」としてのオープンソース
 - 時代はオープンソース(流行)
 - オープンソースにすると品質が上がる(幻想)
 - オープンソースにすると儲かる(妄想)

とにかくオープンソース化



多少ズれてはいるが
中長期的に理解が広まればよい

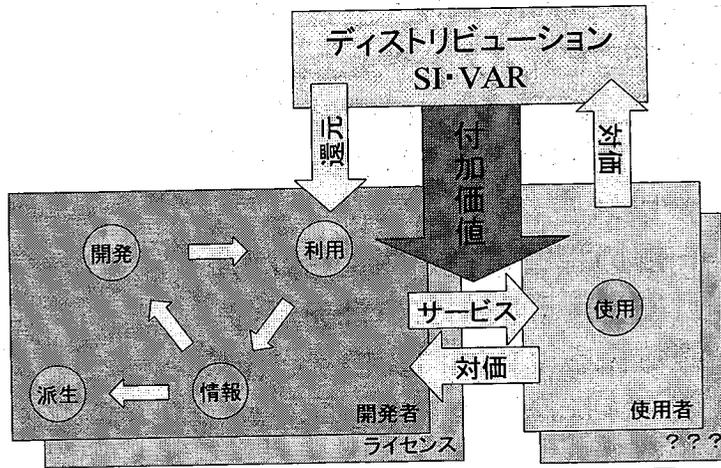
Begi.net

なぜオープンソースか

- 「手段」としてのオープンソース
 - 無いから作る
 - 作ったものを見せたい
 - コードレベルでの改良提案が欲しい
- オープンソース的自由を享受したビジネス
 - ビジネス上の縛りが少ない・参入障壁が低い
 - 循環型・還元型のビジネスモデル

Begi.net

OSSビジネスモデル



Begi.net

成功するOSS開発プロジェクト

- 「成功」の定義が変化
 - 量的成功から質的成功への転換
 - 開発者のモチベーション(⇔持続性)
- “alternative”ではない“original”
 - 既存のものに対する置き換え→相対的価値(低コスト重視)の罠
 - ネットワークによる共有を前提
 - 結果に重点が置かれる→サービスツール？

Begi.net

成功するOSSビジネス

- 開発サイクルへのコミットメント
 - 還元型ビジネスモデルの推進
 - 開発プロジェクトとの透過的融合
 - 不活性要素を取り除く作業が必要
- サービス主体
 - 一層の標準準拠が求められる
 - 目に見えるサービス(汗をかく)
 - 複雑系を単純系に変換する作業
 - 個々人に高いスキルを要求

Begi.net

OSSに期待するもの

- ユーザーの原点回帰を促進
 - 「コンピューターユーザー＝開発者」の時代
 - 『I/O』『マイコンBASICマガジン』的DIYの発想
 - 若年開発者層の充実
- 新しいソフトウェア開発モデルの確立
 - 自由な発想によるプロトタイプ
 - 情報共有型コミュニティ開発モデル
 - 持続的開発サイクル(発展的解消?)

Begi.net